

I. 当院を取り巻く環境

西部医療圏は、徳島県全体の面積の3割以上を占めているが、山間部が多く、社会基盤の整備が遅れている。そのため、若年労働層を中心に人口流出が続いており、高齢化率が高い地域である。今後、人口動態が変化し、医療需要の変化に伴い医療供給体制も変化していく中で、継続的に安定した医療提供体制を構築していくためには、医療資源の確保及び効率的な配置が必要であるとともに、地域の実情を踏まえた機能分化や連携の検討が重要である。

II. 当院の現状と課題

当院の概要

診療科	内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、脳神経内科、緩和ケア内科、外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、救急科、麻酔科
許可 病床数	220床(一般186床、緩和ケア病床20床、結核8床、第2種感染症病床6床)
指定・認定	へき地医療拠点病院、地域救命救急センター、臨床研修病院、災害拠点病院（地域災害医療センター）、徳島DMAT指定病院、第二種感染症指定医療機関、地域がん診療病院、地域医療支援病院、日本医療機能評価機構認定病院、小児救急輪番病院

外来棟の現況・問題点

基本情報	昭和57年3月31日竣工 R C造 2階建 延床面積 3,876㎡
現有機能	1階 受付、医事室、各外来診療科、薬局、検査室、患者支援センター、相談室 2階 院長・事務局長室、事務室、診療情報管理室等、多目的ホール
問題点	・診察室及び付随する諸室が狭い ・電気設備、空調設備、給排水設備の老朽化 ・感染症対策、プライバシーへの配慮が不十分

III. 新外来棟整備の必要性

当院は、西部医療圏の拠点病院であり、将来にわたり良質で安定した医療を提供する医療機関としての責務を果たしていく必要がある。

また、当院の外来棟は、築40年以上経過して老朽化が進んでいることに加え、アンケートやヒアリングにより、現在の外来棟の課題や新たな施設・設備に対する希望が多く寄せられたことを踏まえ、現在の外来棟の老朽化対策を行うだけでなく、患者満足度と職員満足度においても高く、将来需要に柔軟に対応できる新たな外来棟の整備が必要である。

さらに、当院における感染症対応や災害対応機能を高めるためには、救命救急センター棟についても積極的に機能拡充を図っていく必要がある。

IV. 新外来棟整備の基本方針

目指すべき病院像

“四国のへそ”に根ざし地域住民の安全・安心な日常生活を守る病院へ

基本コンセプト	基本方針
①地域の拠点病院として良質な高度医療を担っていく	- 高度医療を提供するため、高層棟、救命救急センターを含めて各部門が機能的に連携できるよう部門配置を行う。 - 将来の進歩と成長に対応するために必要なスペースを確保する。
②職員が誇りを持てる魅力ある病院となり、信頼される医療人の育成を行う	- 効率的に仕事を行えるための職員動線の確保や、診療に不自由のない諸室の確保など職員満足度においても高い施設を整備する。 - 職員が学習したり、チーム医療を推進するためのカンファレンスやディスカッションが行える環境を整備する。 - 職員が休養できる環境を整備し、サービスの品質の向上につなげる。
③地域の医療機関との連携強化により急性期から回復期、さらにその先へとシームレスな医療提供体制を構築していく要となる	- 地域連携機能の充実に必要なスペースを確保する。 - 医療DXを積極的に採用するとともに、オンライン診療等のための必要な設備を整備する。
④災害、新興感染症など有事に際し中心的役割を果たしていく	- 有事において、災害本部としての機能を果たすとともに、あらゆるフェーズに対応しやすい環境を整備する。 - 医療機能が損なわれにくい施設とし、トリアージスペースを確保するなど、患者受入がしやすい環境を確保する。 - 職員の感染リスクを軽減するための設備を充実させるとともに、感染患者を確実に隔離できる環境を整備する。
⑤患者をはじめ地域住民に親しまれる病院へ	- 受付や会計時の時間短縮、プライバシーの確保、アメニティの充実やユニバーサルデザインの採用など患者満足度の高い施設を整備する。 - 視認性が高く、受診される患者をはじめ当院に来院されるすべての方が快適に過ごせる空間を提供する。
⑥将来にわたって持続できる病院へ	- 有事の際にも継続的に救急医療を提供するため、救命救急センターにおける感染対策の向上を図るとともに、南海トラフ地震等の大規模地震では津波被害が想定される沿岸地域の後方支援拠点となることを想定し、大多数の患者を収容できるスペースを救命救急センターと近接する形で整備する。 - 将来的な需要に対して適切な療養環境に変更できるよう、フレキシブルな施設を整備する。 - 経営環境の変化や医療技術の進歩などに柔軟に対応できる施設・設備構造とする。 - 省エネルギー・省力型の施設・設備の導入を促進する。 - 職員の生産性向上に係るICT機器の導入を促進する。

徳島県立三好病院新外来棟整備 基本構想書（案）【概要版】

V. 新外来棟整備の概要

建築地

候補地

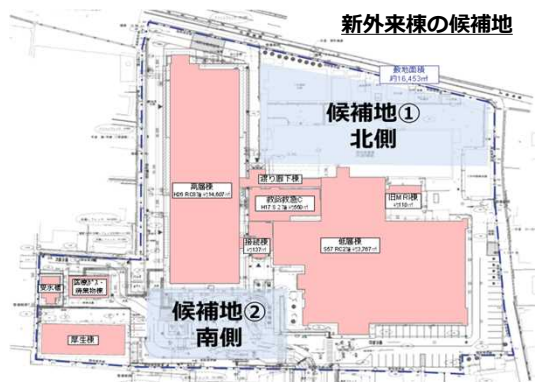
既存の外来棟の運用を継続しながらの建築となるため、新外来棟の候補地としては、建築に必要な用地を確保できる敷地の北側と南側の2箇所が考えられる。

- ・候補地①：北側
- ・候補地②：南側

選定結果

建築地の選定において特に重要視する下記3点について比較検討を行った結果、候補地①（北側）を建築地として採用することとする。
なお、災害対策の観点から、浸水対策を講じることにより、災害拠点病院として、災害時も医療を継続できる体制の構築に努めることとする。

- ①総事業費・工期を抑えることができるか
- ②外来動線の効率化が図れるか
- ③十分な災害対策を行うことができるか



施設規模

新外来棟の延べ床面積は、現在の外来棟と同程度を想定し、既存施設の活用なども検討する。

【理由】

- ・既存の外来棟にある診察室やそれらに付随する諸室の狭隘化に課題があるため、患者及び医療従事者にとって快適な診察環境を確保する観点から、拡張を含めた整備を検討する必要がある。
- ・一方で、既存の外来棟では、廊下面積が諸室の面積に対して、比較的広い面積が確保されていることから、新外来棟においては、高層棟との動線に留意した効率的な諸室配置の見直しを行うことで、廊下面積の適正化につながり、全体としての面積増加を抑制することが可能と推察する。

整備概要

- ・現在の外来棟は、建築から40年以上が経過し、施設の老朽化が著しく部分的な改修では、対応が困難であることから、新たな施設を整備することとする。
- ・新外来棟は、既存の高層棟、救命救急センター棟と一体的に運用できるように整備する。
- ・救命救急センター棟については、新興感染症への対応を行うとともに、救急・災害対応機能の拡充を行う。
- ・現在の外来棟は、解体撤去の上、駐車場として整備する。

診療機能

地域の拠点病院として、救急医療の提供を24時間365日継続するとともに、地域の実情を踏まえた機能分化や連携強化を行い、救急医療機能の向上を図る。

さらに、現状当院が担っている高度医療についても充実を図るとともに、公立病院として地域に必要な医療を継続的に提供するため、現行の機能、診療体制は維持していくこととする。

加えて、今後の医療需要の変化や地域医療提供体制の変化にフレキシブルに対応できる診療体制について、地域の医療機関との協議を行いながら、引き続き検討していく。

VI. 整備スケジュール(案)

新外来棟の整備スケジュールを下記のとおり想定する。

	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度～
基本計画	→					
基本・実施設計		→	→			
建築工事				→	→	
解体・駐車場整備						→